

埼玉県における 食物アレルギー診療の課題

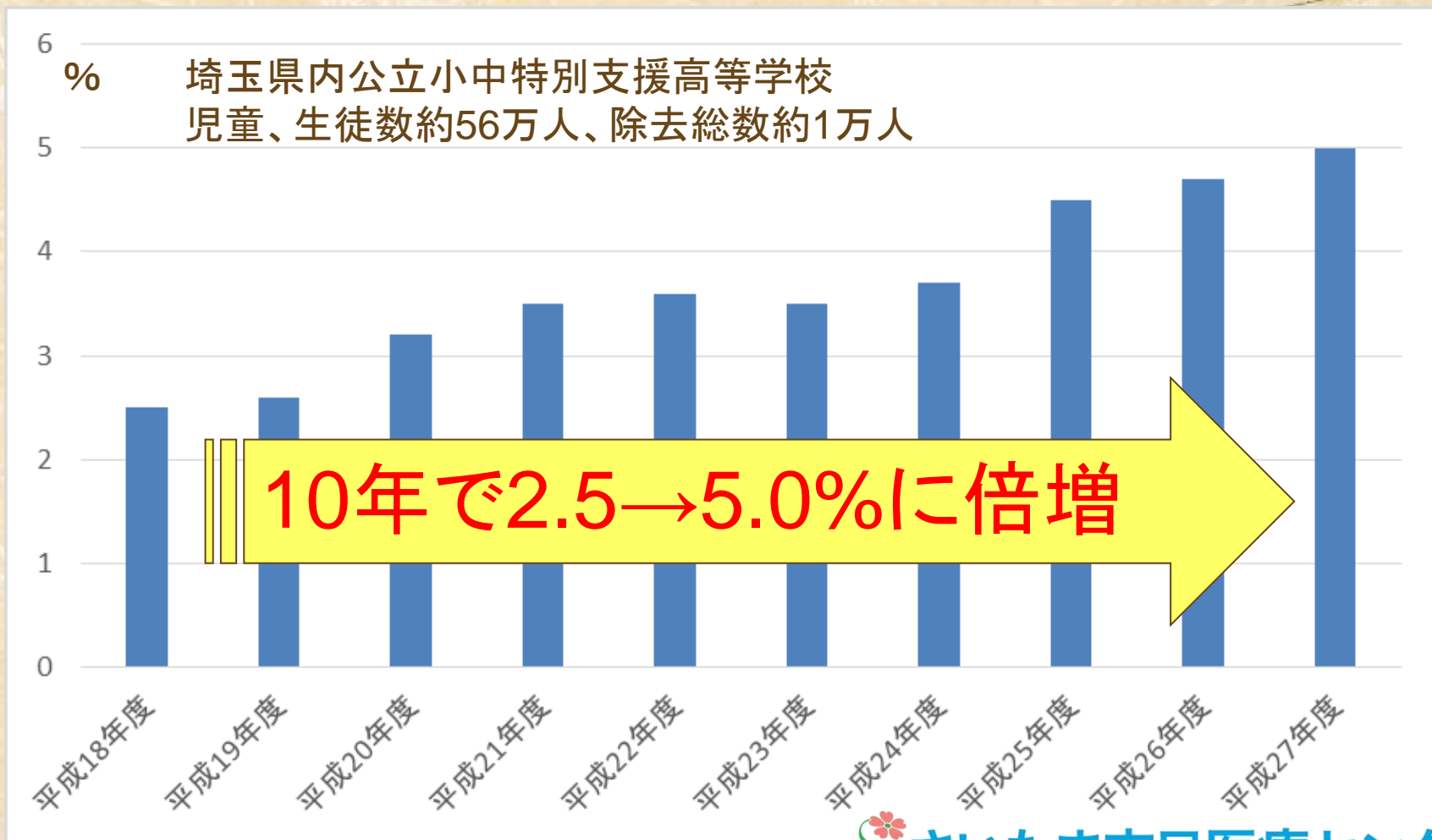


 **さいたま市民医療センター**

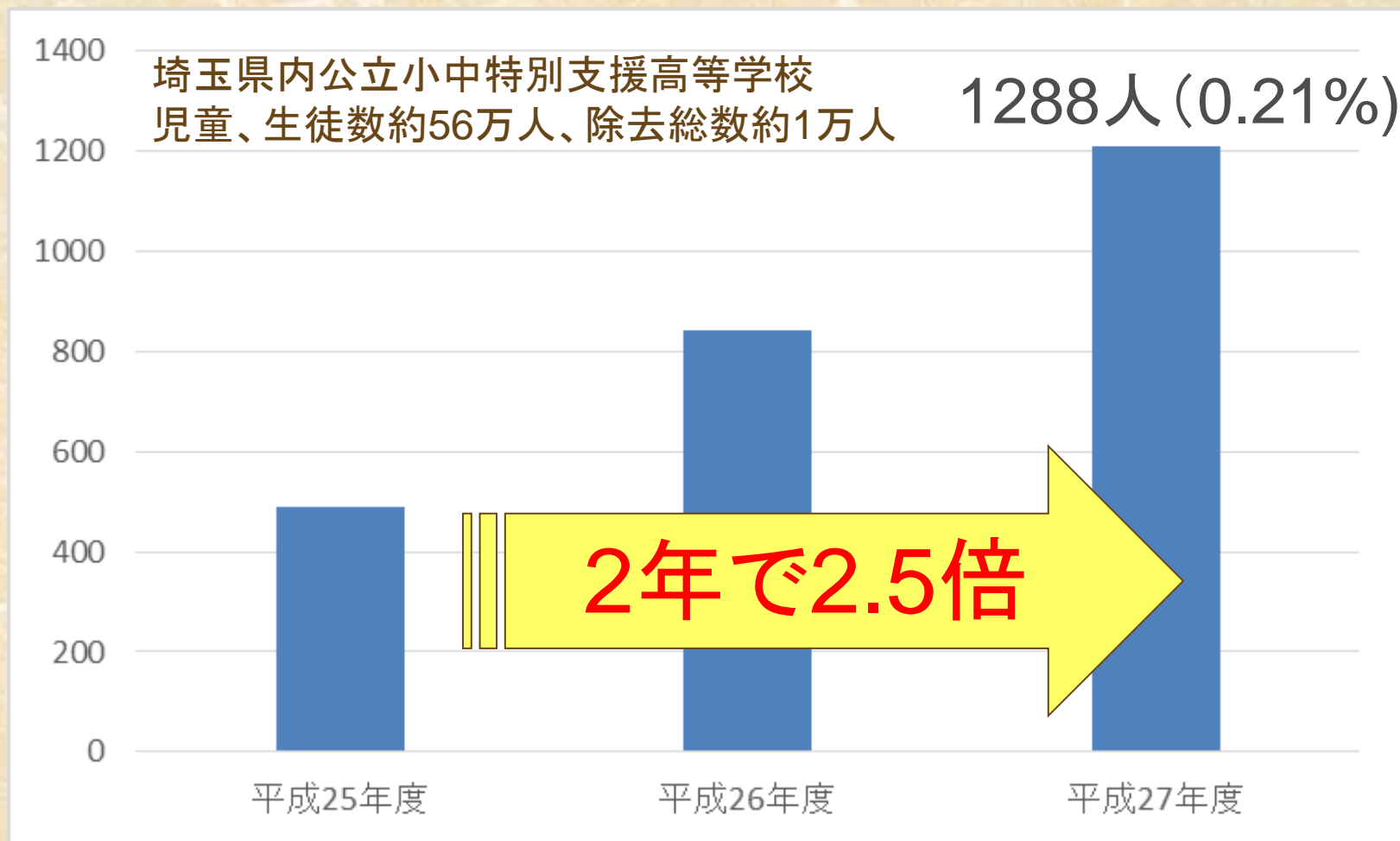
西本 創



食物アレルギーのある児童生徒



アドレナリン自己注射薬所持者数



本当に除去が必要？

- なんとなく
- 蕎麦やピーナッツ、魚卵は怖いから
- 検査陽性だから
- 食物負荷試験が陽性だった。
- 以前に即時型反応を経験している

- 本当に微量で激的な症状をきたす

学校のアレルギー疾患に対する 取り組みガイドライン

平成20年3月 公益財団法人日本学校保健会

正確な情報把握と共有が重要

学校のアレルギー疾患に対する
取り組みガイドライン

公益財団法人 日本学校保健会

裏
学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）

名前 _____ 男・女 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日生（ _____ 歳） _____ 学校 _____ 年 _____ 組 提出日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

病型・治療		学校生活上の留意点	★保護者 電話： ★連絡医療機関 医療機関名： 電話：
A. 食物アレルギー病型（食物アレルギーありの場合のみ記載） 1. 即時型 2. 口腔アレルギー症候群 3. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー B. アナフィラキシー病型（アナフィラキシーの既往ありの場合のみ記載） 1. 食物（原因 _____ ） 2. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー _____ 3. 運動誘発アナフィラキシー _____ 4. 昆虫 _____ 5. 医薬品 _____ 6. その他（ _____ ） C. 原因食物・診断根拠 該当する食品の番号に○をし、かつ〈 〉内に診断根拠を記載 1. 鶏卵 〈 _____ 〉 2. 牛乳・乳製品 〈 _____ 〉 3. 小麦 〈 _____ 〉 4. ソバ 〈 _____ 〉 5. ビーナッツ 〈 _____ 〉 6. 種実類・木の実類 〈 _____ 〉（ _____ ） 7. 甲殻類（エビ・カニ）〈 _____ 〉 8. 果物類 〈 _____ 〉（ _____ ） 9. 魚類 〈 _____ 〉（ _____ ） 10. 肉類 〈 _____ 〉（ _____ ） 11. その他1 〈 _____ 〉（ _____ ） 12. その他2 〈 _____ 〉（ _____ ） D. 緊急時に備えた処方薬 1. 内服薬（抗ヒスタミン薬、ステロイド薬） 2. アドレナリン自己注射薬（「エビペン®」） 3. その他（ _____ ）		A. 給食 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 B. 食物・食材を扱う授業・活動 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定 C. 運動（体育・部活動等） 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 D. 宿泊を伴う校外活動 1. 配慮不要 2. 食事やイベントの際に配慮が必要 E. その他の配慮・管理事項（自由記載）	
【診断根拠】 該当するもの全てを〈 〉内に記載 ① 明らかな症状の既往 ② 食物負荷試験陽性 ③ IgE抗体等検査結果陽性			記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 医師名 _____ ⑩ 医療機関名 _____
病型・治療		学校生活上の留意点	記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
A. 病型 1. 通年性アレルギー性鼻炎 2. 季節性アレルギー性鼻炎（花粉症） 主な症状の時期： 春、夏、秋、冬 B. 治療 1. 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬（内服） 2. 鼻噴霧用ステロイド薬 3. その他（ _____ ）		A. 屋外活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 B. その他の配慮・管理事項（自由記載）	医師名 _____ ⑩ 医療機関名 _____

アナフィラキシー（あり・なし）
食物アレルギー（あり・なし）

アレルギー性鼻炎（あり・なし）

●学校における日常の取り組み及び緊急時の対応に活用するため、本表に記載された内容を教職員全員で共有することに同意しますか。

1. 同意する
2. 同意しない

保護者署名： _____



ところが、埼玉県では・・・

- 記入できる医療機関がない
 - 食物負荷試験を含めた**専門医療**
 - **緊急対応**できる医療機関
- 地域医療機関の協力が得られない
 - 診療が**多忙**
 - 記入方法が**わからない**
- 保護者からの反発
 - 受診、費用の負担

さいたま市アレルギー疾患管理指導願

- さいたま市教育委員会のマニュアルに明記
- 医師と相談し**保護者が作成**
- 平成20年さいたま市各医師会と協議した結果、作成・活用することとなった。無料として埼玉県医師会と合意している。(教学健第2198号、平成20年11月5日)

さいたま市アレルギー疾患管理指導願
(食物アレルギー・アナフィラキシー)

様式1-2
疾患を○で囲む

名前 _____ 男・女 平成 年 月 日生 _____ 年 組

原因・症状・治療	
A. 食物アレルギーの原因と症状 (いくつかある場合は、番号を付けて全て記載):	
B. アナフィラキシーの原因と症状 (いくつかある場合は、番号を付けて全て記載):	
C. 現在使用中の薬剤 (内服薬・外用薬・その他など):	
D. 急な症状出現時の治療薬 (主治医に指導されている緊急時に必要な薬剤):	
学校生活上の留意点	
A. 給食・環境や運動 (体育・部活動等)において:	
B. 宿泊を伴う校外活動において (特に食事について):	
C. その他 (保護者の意見等も含む):	

●主治医または専門医の指導により、以上の事項を記載し提出致します。
●学校における日常の取組み及び緊急の対応に活用するため、本表に記載された内容を本校の教職員全員で共有することに同意しますが、

1. 同意する。 2. 同意しない。

●緊急の連絡先

連絡順位	氏名	氏名等	連絡先	電話番号
1			自宅・職場・携帯・()	
2			自宅・職場・携帯・()	
3			自宅・職場・携帯・()	

提出日:平成 年 月 日

保護者氏名 _____ 印 _____

-25-

「願」で困ったこと

- 保護者が自由に記載する
 - 不要な除去が多く、教育現場が混乱
 - 重症患者への意識が低下する
 - 本人の不利益
- 緊急連絡先（医療機関）記入欄がない
- 主治医不在となる

さいたま市学校給食食物アレルギー会議

- 平成26年1月8日開催
- 出席者
 - さいたま市教育委員会、
 - 市内4医師会（浦和、大宮、与野、岩槻）
 - 市基幹病院医師（当院、市立、自治、西部）
- 23時まで白熱した議論
- 学校管理指導表1本化を議決
- 委員会の恒常化が望ましい

学校給食における 食物アレルギー 対応指針

- 1 食物アレルギー対応委員会
- 2 対応申請の確認から対応開始まで
- 3 献立の作成と検討
- 4 給食提供 体制づくり・調理作業
- 5 教室での対応

平成27年3月

食物アレルギーの把握方法

さいたま市立小中学校98321人中に3852人(3.9%)在籍
平成25年5月時点

その他42.6%

(保健調査票、学校独自文書、連絡帳等)

願52.2%

対応しているのは
57%(2211人)のみ

表1.5%

何らかの対応をしている児童・生徒の提出状況 導入後2246人(さいたま市:平成26年度)

約25%は除去不要?

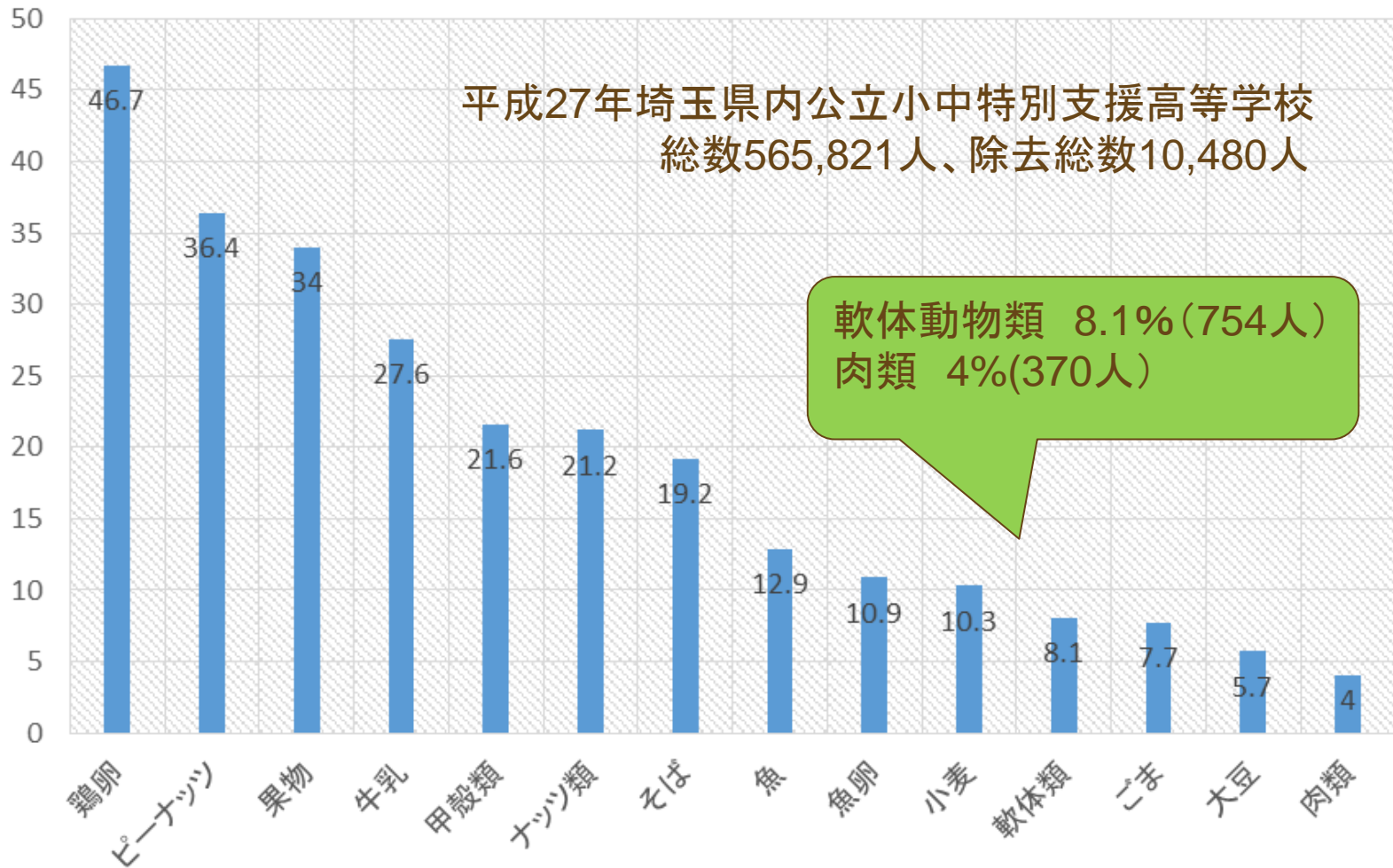
提出不要
6.3%(141人)

提出保留
19.0%(426人)



除去食品の割合(%)

平成27年埼玉県内公立小中特別支援高等学校
総数565,821人、除去総数10,480人

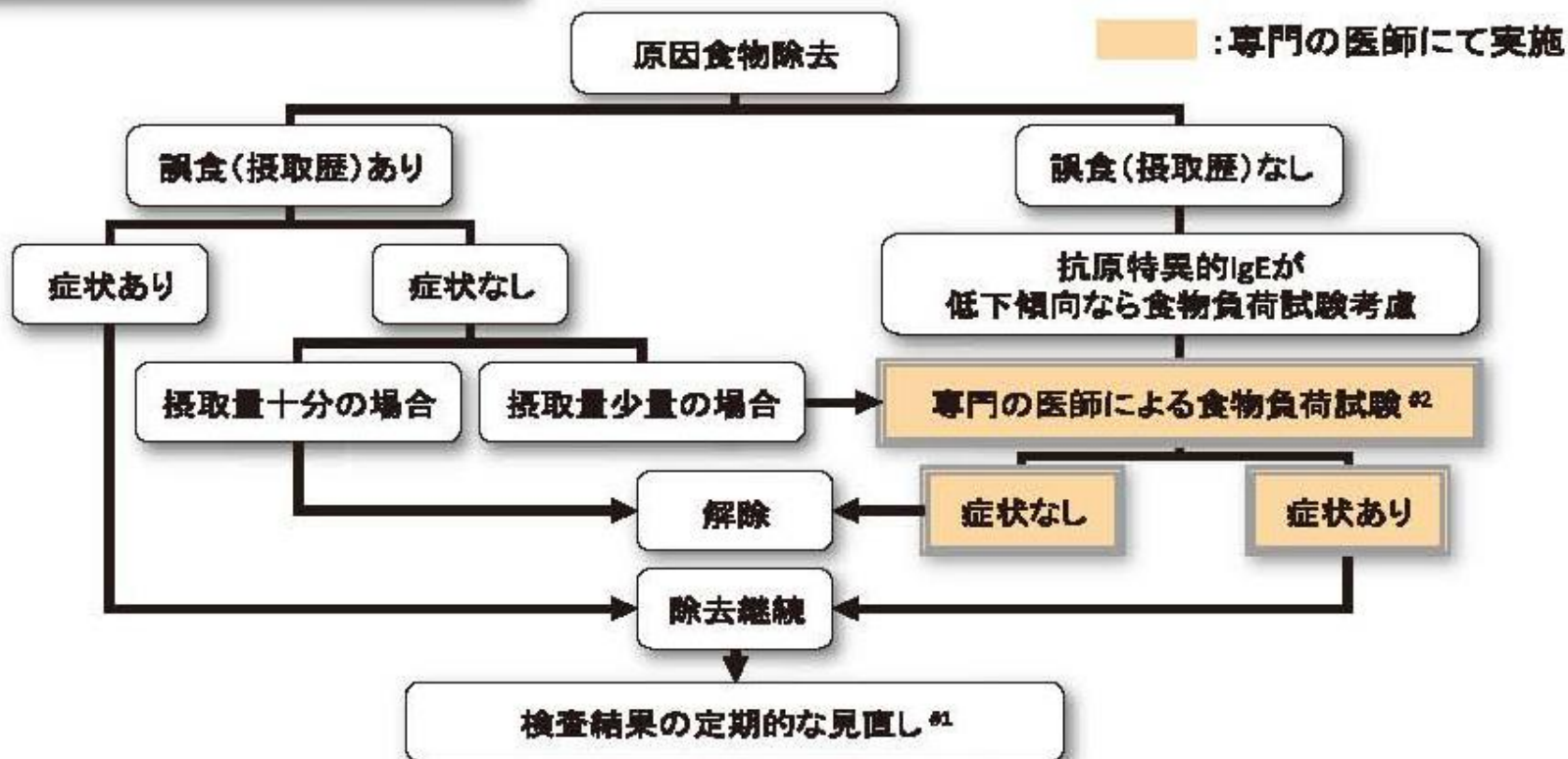


小児食物アレルギー負荷試験

- D291-2 1000点
- 2006年入院、2008年外来にも拡大
- 注1、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合するものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、**9歳未満**の患者に対して食物アレルギー負荷試験を行った場合に、**年2回に限り**算定する。
- 注2、小児食物アレルギー負荷試験に係る投薬、注射及び処置の費用は、所定点数に含まれるものとする。
- 文書により説明する

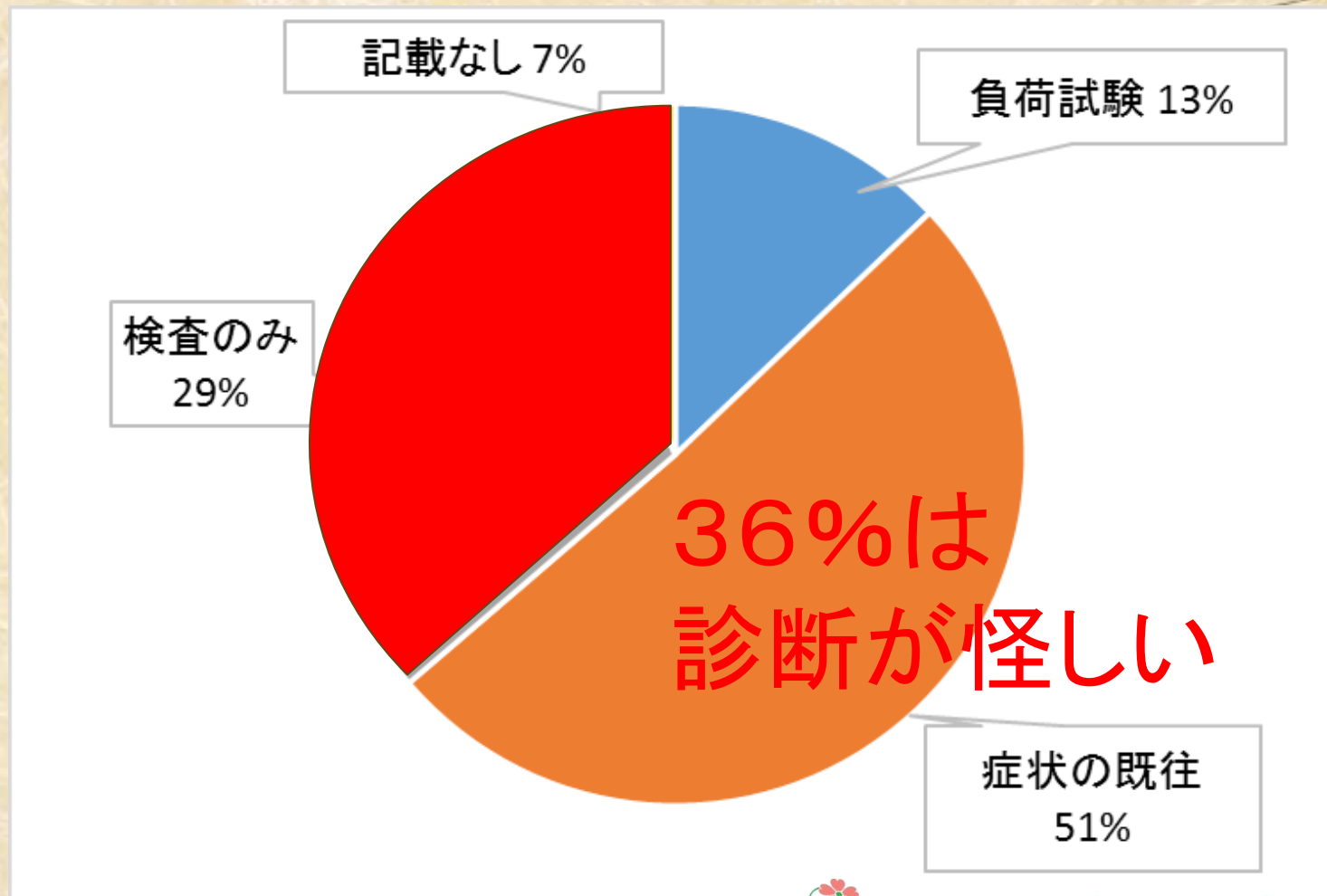
厚生労働科学研究班による 食物アレルギー診療の手引き2011

原因食物決定後の管理



鶏卵の診断根拠

平成27年埼玉県内公立小中特別支援高等学校
総数565,821人、除去総数10,480人

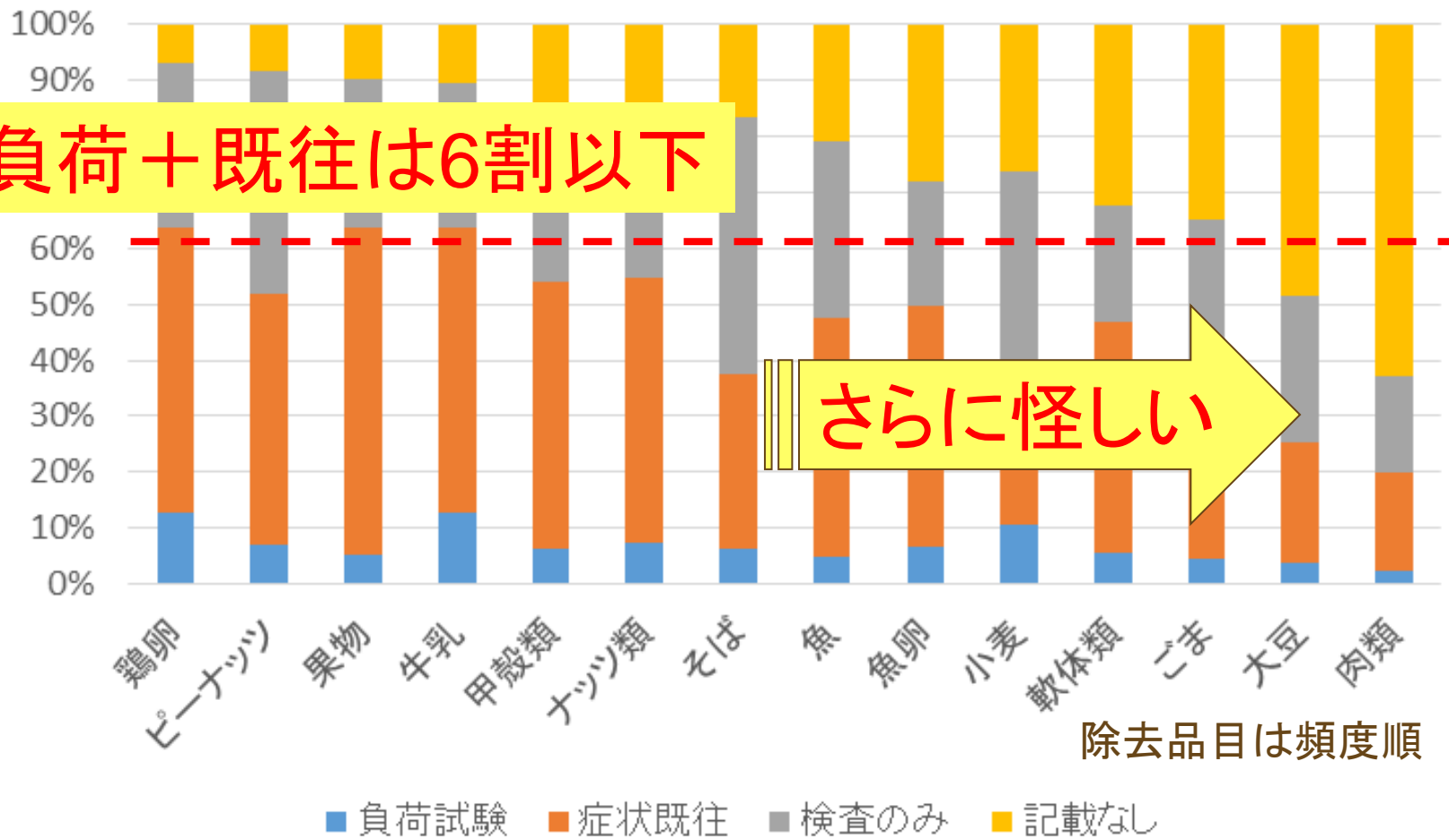


診断根拠

質の高い管理指導表を！

負荷＋既往は6割以下

さらに怪しい



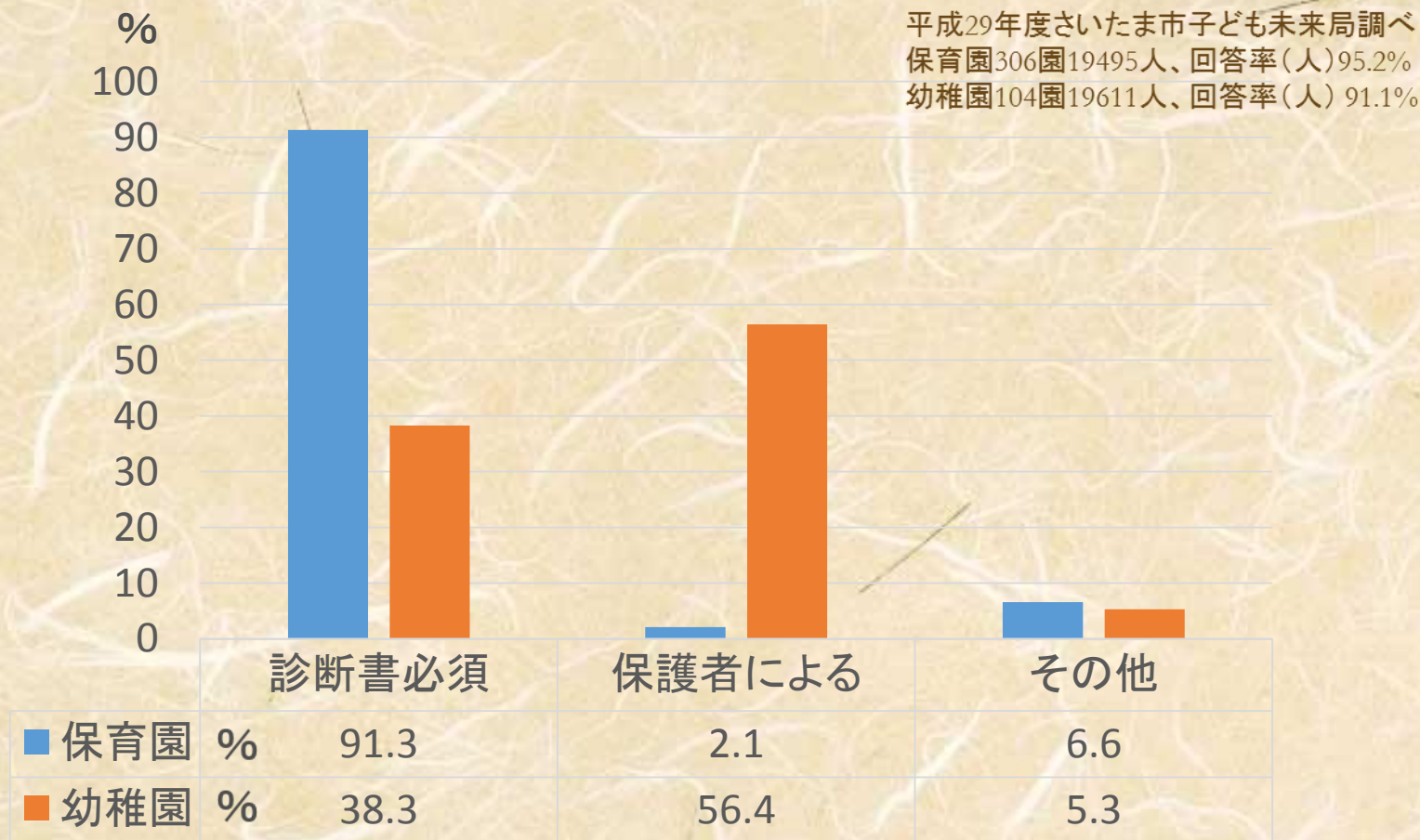
食物負荷試験実施病院

平成28年4月埼玉県医師会調べ(21病院)

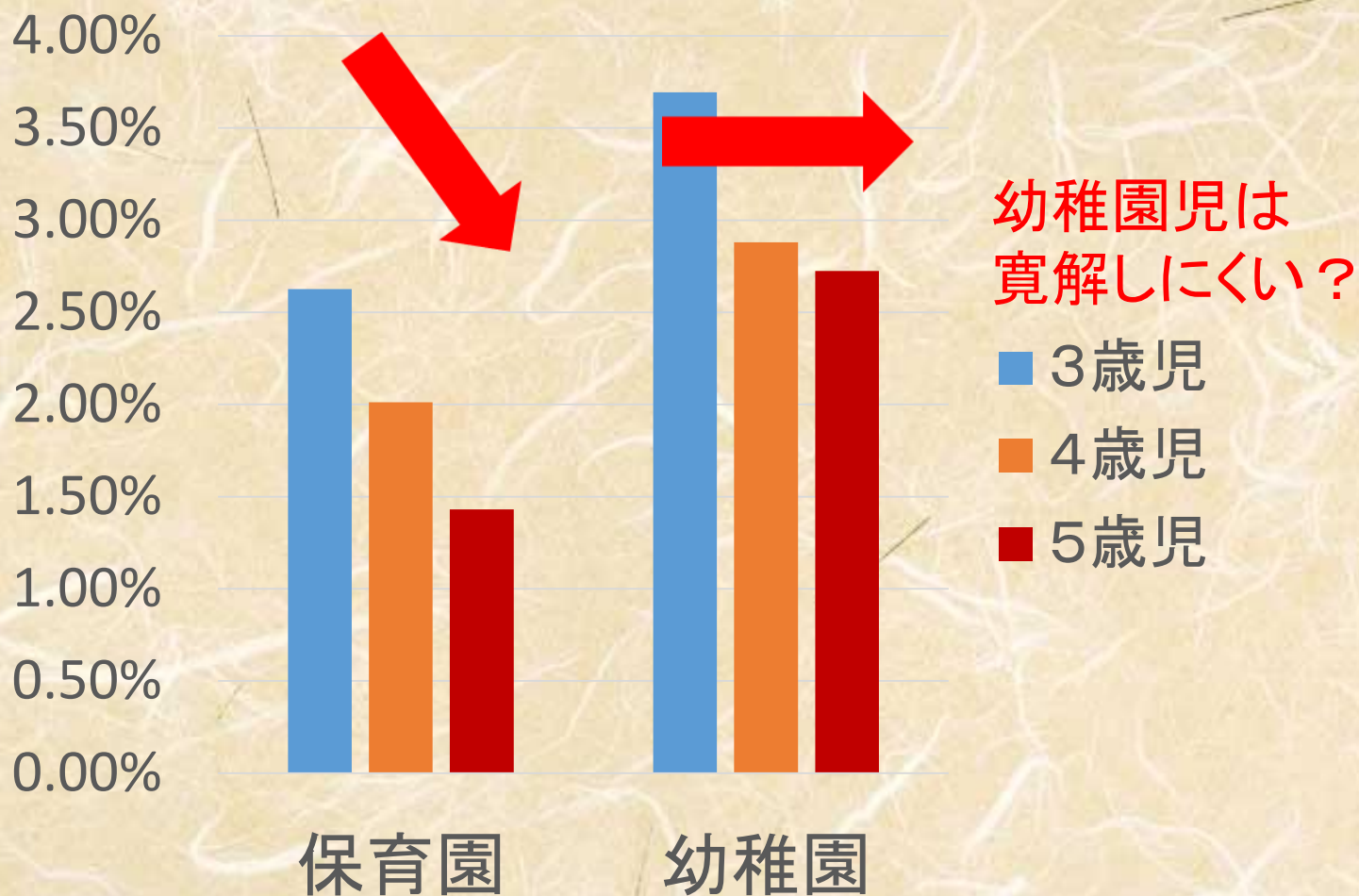
- さいたま市民医療センター
- 西部総合病院
- さいたま赤十字病院
- 埼玉県立小児医療センター
- 越谷市立病院
- 土屋小児病院
- 戸田中央総合病院
- 瀬戸病院(所沢市)
- 深谷赤十字病院
- 菊池病院(深谷市)
- 愛和病院(川越市)
- 蓮田一心会病院
- 秩父市立病院
- 白岡中央総合病院
- さいたま市立病院
- 自治医科大学附属さいたま医療センター
- 済生会川口総合病院
- 川口市立医療センター
- 草加市立病院
- 北里大学メディカルセンター
- 埼玉病院(和光市)
- 埼玉協同病院
- 獨協大学越谷病院
- 埼玉医科大学病院

食物アレルギー研究会掲載

保育園と幼稚園の比較



保育園と幼稚園の比較(鶏卵)



食物アレルギー診療ガイドライン



正しい診断に基づいた
必要最小限の除去



原因食品を可能な限り
摂取させるには

これからの課題

[健康・公衆衛生へ戻る](#)

クリップする 

今のアレルギー診療は"くじ引き"状態?!

第1回アレルギー疾患対策推進協議会

[健康・公衆衛生](#) | 2016.02.04

 ツイート

 シェア 22

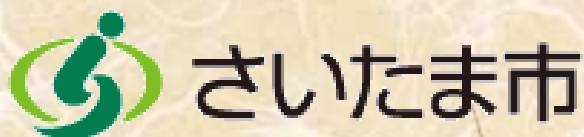
 Pocket 0

 feed

[\[PR\]CURASAW\(キュラソウ\)～医学・医療ニュースは日々の新聞代わりにナナメ読み～\(ミュートス\)](#)

2月3日、第1回アレルギー疾患対策推進協議会（会長＝国立研究開発法人国立成育医療研究センター副所長・斎藤博久氏）が開かれた。昨年（2015年）12月25日から施行されたアレルギー疾患対策基本法で設置が定められた組織。今夏をめどにアレルギー疾患対策の総合的な推進を図るための基本指針を取りまとめる。今回はアレルギー疾患を取り巻く主な課題が取り上げられた。「患者にとって、今のアレルギー医療はたまたま受診した医師で人生が大きく左右されることがある"くじ引き"のようなもの」とのコメントも聞かれた。

地域医療支援病院を核に



情報共有
救急対応



マニュアル作成協力

各種研修会

委託事業

地域医療支援病院




学校管理指導表
受診対応



学校医相談
紹介、逆紹介
再教育



 **さいたま市民医療センター**

食物アレルギー対応マニュアル

- ◆異変に気がついたら、まずは人を集める
- ◆下記の症状をチェックして、すばやく重症度を判断する
- ◆急激に変化するため、ピークを越えるまでは注意深く観察する
- ◆悪化が予想される場合には症状の出現を待たずに次の対応へ
- ◆少なくとも1時間は観察し、完全によくなるまで目を離さない

<東京都食物アレルギー緊急時対応マニュアルより引用、一部改変>

全身の症状	<input type="checkbox"/> くったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 顔が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い		
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸		<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1～2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1～2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・鼻・顔面の症状	<div style="background-color: red; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> 上記の症状が 1つでもあてはまる場合 </div>	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状		<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み

①ただちにエビペンを使用する
 ②救急車を要請する(119番通報)
 ③その場で安静を保つ(歩かせない)
 ④その場で救急隊を待つ
 ⑤可能ななら内服薬を飲ませる
 ⑥仰向けにして足を上げる

緊急

①内服薬を飲ませ、エビペンを準備する
 ②速やかに医療機関を受診する(救急車の要請も考慮)
 ③急速に進行する場合は左記の対応を行う
 ④座位にして会話しながら観察すると、重症化の判断がしやすい

受診

①内服薬を飲ませる
 ②急速に進行する場合は左記の対応を行う

注意

ID

氏名

新知 **子どもの食物アレルギー** 食べて治す!



どうしたらいいの？

食物アレルギーに対する考え方は大きく変化しており、以前に指導されていた妊娠中や授乳中に卵や牛乳を食べない、離乳食を遅らせた方が良いという説は、すでに根拠がないと否定されています。では、どういうことに注意したらアレルギーにならないのか？ スキンケアによる経皮感作の予防、食物負荷試験や経口免疫療法といった最新のアレルギー診療、厚生労働省、文部科学省のガイドラインに基づいた給食など集団生活における対応を解説します。

アナフィラキシー ~~×~~ 食物負荷試験 ~~×~~ エピペンの使い方

講師

 **さいたま市民医療センター**
小児科 科長 西本 創 先生

埼玉県やさいたま市の教育委員会、子ども未来局のアレルギー対応マニュアルを監修し、行政と医療機関が連携して、アレルギー疾患に悩む子ども達が不利益なく安全に過ごすことができるよう活動されている。
医師向けの食物アレルギー診療ガイドラインの作成に携わられている。



日
吐
場
所

11月3日 土

13:00～16:30

(開場12:00～)

市民会館おおみや 大ホール

先着1300名様
参加費無料

どなたでも
参加いただけます

お問い合わせ

さいたま市子ども未来局幼児未来部

TEL 048-829-1867(保育課直通)

埼玉県における課題

- 幼稚園・保育園の支援
- 学校の支援（学童、国立、私立含め）
- 研修機会の提供
- 市民公開講座の開催
- 相談窓口設置（患者・学校・保育・行政）
- 地域拠点病院の指定、食物負荷試験・生活管理指導表記入可能施設の調査



さいたま市 アレルギーサポートチーム



さいたま市PRキャラクター
つなが竜又ウ



日本最大規模を誇る都心緑地空間
“見沼んぼ”の主の子孫。

- さいたま市民医療センター小児アレルギーエデュケーター
森茂亮一、谷田部良美
- さいたま市教育委員会 秋山昌代、辻野智香
- さいたま市こども未来局 福島雅子、中野綾子、早坂美保
- 埼玉県教育局 荒井今日子